

2020年10月6日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状態にあるが、足もとでは、持ち直しの動きがみられる。

輸出は、持ち直しの動きがみられる。設備投資は、増勢が一段と鈍化している。個人消費は、サービスを中心に大幅に減少した状態が続いてきたが、足もとでは、持ち直しの動きがみられる。住宅投資は、緩やかに減少している。公共投資は、増加している。こうした中で、生産は、持ち直しの動きがみられる。雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。この間、企業の業況感は、小幅な改善がみられている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、持ち直しの動きがみられる。

設備投資は、増勢が一段と鈍化している。

個人消費は、サービスを中心に大幅に減少した状態が続いてきたが、足もとでは、持ち直しの動きがみられる。

家電販売額は、持ち直しの動きがみられる。百貨店販売額、乗用車販売は、大幅に減少した状態が続いてきたが、足もとでは、持ち直しの動きがみられる。スーパー等販売額は、減少した状態が続いている。旅行取扱額、外食売上高は、大幅に減少した状態が続いている。

住宅投資は、緩やかに減少している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、持ち直しの動きがみられる。

内訳をみると、輸送機械関連を中心に持ち直しの動きがみられる。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台前半のマイナスとなっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているが、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金や個人預金の増加を背景に、前年比7%台半ばのプラスとなっている。

貸出残高は、企業向けの資金繰り支援融資の増加を主因に、前年比5%台半ばのプラスとなっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上